



腎臓と薬のお話

腎臓内科医長 曾爾 浩太郎

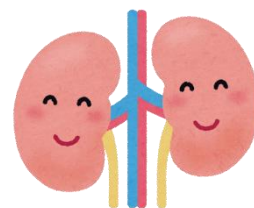
腎臓の主な働きは、尿を作り、体内で代謝され不要となったものを排泄することです。多くの薬剤も腎臓から排泄されるため、腎機能に応じた薬の投与量や投与間隔の調整が必要です。腎機能によっては、使用することすらできない薬剤もあります。つまり、腎臓の働きが悪い腎不全の方は、薬の種類や量に注意が必要なのです。

代表的な薬剤として、抗菌薬や抗がん剤などは、投与量や投与間隔を厳密に調整されています。他に注意すべき代表的な薬剤として、NSAIDs と呼ばれる鎮痛薬や一部の糖尿病治療薬、経口抗凝固薬、神経障害性疼痛の薬、抗ヘルペスウイルス薬などがありますが、ここにすべてを列挙することはできません。

さて、皆さんの飲んでいる薬は、腎機能に応じて調整されているのでしょうか？かかりつけの先生がちゃんとやっているはず…！？それでは、皆さんはご自身の腎機能がどれくらいなのか、ご存知ですか？例えば旅先で、予期せずかかりつけ以外の病院を受診することになった時、ご自身の腎機能を伝えることができるのでしょうか？お互い知らなければ、過量の薬を処方されることになってしまうかもしれません。これは腎機能に限らないことですが、ご自身の健康状態について、きちんと把握しておくことが大切です。

ここまで、腎機能低下時に薬剤の選択や投与量に注意する必要性についてお話ししてきましたが、「腎機能が悪かったら、どの薬も怖くて飲めない！」とは思わないで下さい。たしかに腎機能障害の程度によっては、そもそも投与を受けられない薬剤もありますが、一方で腎不全でも全く調整の要らない薬剤も多々あります。適切な薬剤を選択し、適切な投与量に調整すれば、腎機能正常な方と同じような効果を期待できる薬剤がほとんどです。

まずは、ご自身の腎機能検査結果に目を向けてみてください。
ご不明な点は担当医にお尋ねください。



特定看護師について

特定看護師 大上 晋太郎

当院では、2020年度から特定看護師が活動しています。

●特定看護師とは？

「特定看護師」とは、2015年10月に厚生労働省が施行した「特定行為に関わる看護師の研修制度」によって生まれた名称です。

特定看護師は今後さらに高齢化が見込まれる社会において、通常の看護師の業務だけでは医師の補助を行うには足りないとして設けられた看護師であり、今後の医療を支え、活躍できる看護師として期待されています。そのため、厚生労働省では2025年までに約10万人以上の特定看護師を育成する方針となっています。

●特定看護師ができることは？

特定看護師になると、通常の看護師では医師に患者の病状や変化を一回一回報告し、判断や指示を確認していたものが、あらかじめ医師が作成した手順書をもとに医師の判断を待たずに特定看護師の判断で特定行為を行うことが出来るようになります。

リアルタイムで患者への処置や早期対応が可能になることで、患者の求めている処置がすぐに提供出来るようになるため、迅速な判断と処置が必要となる急性期医療や在宅医療などでの活躍が期待されています。

現在、特定看護師が行える「特定行為」は全部で38行為あります(表)。特定看護師がこの中のどの行為を行えるかはそれぞれの特定看護師が受けた研修によって異なります。

特定看護師の具体的な活躍の例として、急性期医療の場では、人工呼吸器設定変更や鎮静剤や血圧を保つ薬剤の調整をより患者の状態に沿った形でタイムリーに行うことが出来るようになります。また、訪問看護では、訪問先で看護師が患者の状態を脱水と判断した際には手順書に基づき点滴を行うことで患者の状態の安定化を図ることが出来ます。それにより救急搬送や入院の回数を減らすことが出来るようになります。

●当院における特定看護師の活動

当院では現在、急性期医療の重要部署であるHigh Care Unit(高度治療室)に1名の特定看護師が所属し、特定行為を実践し患者への支援を行っています。また、特定行為の実践だけでなく特定行為研修で得た知識、技術を活用し、看護師への教育や患者と医師、多職種の間を取り持つことで患者へ提供される医療の質の向上に努めています。

| | |
|------------------------------------|---|
| 1 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 | 20 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 |
| 2 侵襲的陽圧換気の設定の変更 | 21 創傷に対する陰圧閉鎖療法 |
| 3 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 | 22 創部ドレーンの抜去 |
| 4 人工呼吸管理がなされている患者に対する鎮静薬の投与量の調整 | 23 直接動脈穿刺法による採血 |
| 5 人工呼吸器からの離脱 | 24 橈骨動脈ラインの確保 |
| 6 気管カニューレの交換 | 25 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液濾過器の操作及び管理 |
| 7 一時的ペースメーカーの操作及び管理 | 26 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 |
| 8 一時的ペースメーカーリードの抜去 | 27 脱水症状に対する輸液による補正 |
| 9 経皮的心肺補助装置の操作及び管理 | 28 感染徴候がある患者に対する薬剤の臨時的投与 |
| 10 大動脈バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整 | 29 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整 |
| 11 心嚢ドレーンの抜去 | 30 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 |
| 12 インスリンの投与量の調整 | 31 持続点滴中のナトリウム、カリウム、又はクロールの投与量の調整 |
| 13 低圧胸腔内持続吸引機の吸引圧の設定およびその変更 | 32 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 |
| 14 胸腔ドレーンの抜去 | 33 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 |
| 15 腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む) | 34 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整 |
| 16 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 | 35 抗けいれん剤の臨時的投与 |
| 17 膀胱ろうカテーテルの交換 | 36 抗精神病薬の臨時的投与 |
| 18 中心静脈カテーテルの抜去 | 37 抗不安薬の臨時的投与 |
| 19 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 | 38 抗癌剤その他の薬剤が血管外に露出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整 |

がん相談支援センター ご案内

～お一人で悩まずに気軽にご相談ください～

がん治療・療養や仕事について

このような不安や悩みはありませんか？

- ☑ がんについて詳しい情報が知りたいけど、どうしたらいいの？
- ☑ 医療費はどのくらいかかるの？
- ☑ 仕事とがん治療の両立について悩んでいる。
- ☑ 療養に関する社会資源・介護サービスについて知りたい。
- ☑ 在宅で療養したいけど、何をどう準備したらいいの？
- ☑ がんと診断されたけど、他病院の医師の意見も聞いてみたい。



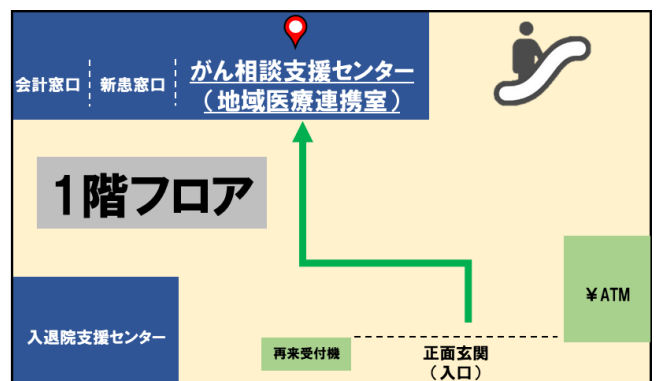
各がんの冊子を1階
受付前に設置しています

～4つのポイント～

- ❖ 当院へ入院・通院中のがん患者さんに限らず **どなたでも** 相談ができます。
- ❖ **無料** で相談ができます。
- ❖ 1回の相談時間は **30分程度**
- ❖ 電話・面談(要予約)等により相談できます。
(内容によって院内の各専門職が対応します)

～がん相談支援センターとは～

がんに関する治療・療養上の不安や悩みに対して、**がん相談支援室専任の看護師・医療ソーシャルワーカー**が、皆様のお話を伺い、安心して療養していただけるよう、お手伝いをさせていただきます。



【相談窓口】


呉共済病院
がん相談支援センター

■ TEL: (0823) 22-2111 (代表)

■ 月～金(祝除く) 10:00～16:00

※1階総合案内「地域医療連携室 がん相談支援センター」へお越し下さい

呉共済病院の“キャッチコピー”をご紹介します！！

 呉共済病院キャッチコピー

まもりたい、 あなたの明日と 地域の医療。



この度、呉共済病院ではより良い病院を目指すため、そして、市民の皆さんに親しみを持ってもらうために、病院のキャッチコピーを作成しました。

このキャッチコピーには、患者さんに明るい明日が訪れて欲しいという願いと市民病院として地域の医療を支えていくという決意が込められています。

—病院の理念—

高度良質の医療
最善の奉仕
研鑽と協調
地域医療の支援

—病院の基本方針—

- 一 良質で適切な医療の提供に努めます
- 二 患者さんの権利を尊重し、患者さんの満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として、地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します

—患者さんの権利—

- 一 個人の尊厳は尊重されます
- 二 平等な医療を受ける権利を有します
- 三 最善の医療を受ける権利を有します
- 四 自己の病状や治療等について知る権利を有します
- 五 自己の診療については、検査・治療の内容等について十分な説明を受け理解し、自己決定をする権利を有します
- 六 診断や治療に関して他の医師や医療機関の意見を求めることができ、その上で診療の撤回ができます
- 七 臨床試験や治験等への参加については、その内容、予想される危険性、従来の治療方法との違い等について十分な説明を受け、自己決定をすることができます
- 八 プライバシーの権利を有します